

第12回南区自治協議会 会議概要

- 日 時 令和3年3月24日(水) 午後2時～午後4時40分
- 会 場 新潟市南区役所4階 講堂
- 次 第
- 1 開会
 - 2 市長との懇談会
 - ・令和3年度 新潟市の取り組み
 - 3 「南区まちづくり活動サポート事業」の実施報告
 - 4 議事
 - (1) 次期南区自治協議会委員の推薦について
 - 5 部会報告
 - (1) 部会報告
 - (2) 南区自治協議会提案事業事業評価について
 - 6 報告
 - (1) 自治協議会会長会議について
 - (2) その他
 - 7 次期第1回全体会
月 日() 南区役所 午後 時から
 - 8 閉会

事前配布資料

- 令和3年度 新潟市の取り組み
- 資料1 「南区まちづくり活動サポート事業」実施報告書、収支決算書
- (a) 新潟市食生活改善推進委員協議会 南支部
 - (b) 白根子行進曲を通じて白根の100年後を考える実行委員会
 - (c) 下茨自治会
 - (d) 月潟商工会青年部
- 資料4-1 区自治協議会提案事業 事業評価書(第1部会)
- 資料4-2 区自治協議会提案事業 事業評価書(第2部会)
- 資料4-3 区自治協議会提案事業 事業評価書(第3部会)
- 資料4-4 区自治協議会提案事業 事業評価書(全体会)
- 資料5-1 南区自治協議会(第7期)を振り返って
- 資料5-2 新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に関する情報共有について(第7期から第8期へ)

当日配布資料

- 資料2 第8期 南区自治協議会委員推薦者一覧(案)
- 資料3-1 南区自治協議会第1部会 会議概要
- 資料3-2 南区自治協議会第2部会 会議概要
- 資料3-3 南区自治協議会第3部会 会議概要

出席委員： 斎藤栄樹委員，栗田修二委員，須戸官一委員，久保安夫委員，
小林 誠委員，川村朋生委員，有田正己委員，本永裕子委員，
鞠子幸一委員，富井 敦委員，笹川和代委員，渡邊直樹委員，
中丸ちえ子委員，渡邊喜夫委員，小嶋ノリ委員，大那 孝委員，
山宮勇雄委員，鈴木照子委員，松尾正行委員，田中容子委員，
阿部隆一委員，小田信雄委員 以上22名

欠席委員： 今井 剛委員，梅津繁明委員，長澤文彦委員，森澤達矢委員，
中野裕子委員，町屋参吉委員，和泉美春委員，早見真由美委員

事務局：(南区) 五十嵐区長，水野副区長，内藤区民生活課長，佐藤健康福祉課長，
石崎産業振興課長，赤塚建設課長，川崎南区農業委員会事務局長，
鈴木南区教育支援センター所長，鈴木地域総務課長補佐，
藤村地域総務課長補佐，地域総務課職員

(本庁) 田辺保健管理課長，市民協働課職員，秘書課職員

〔Webによるリモート出席(南区)〕川村味方出張所長，登石月潟出張所長，
和田白根地区公民館長

報 道 1名(新潟日報社)

傍 聴 者 1名

(午後2時00分)

1 開 会

○議長(小田会長) ただいまより，令和2年度第12回南区自治協議会を開催する。なお，いつものとおり出欠と資料の確認は市長との懇談会の終了後，議事に入る前にやらせていただくので，ご容赦いただきたい。

2 市長との懇談会

○議長(小田会長) 本日は，ご案内申し上げているとおり，自治協議会の議題に入る前に，中原市長がお見えになっているので，令和3年度新潟市の重点的な取り組みについて，お話と説明をいただきたいと思っている。その後，市保健衛生部保健管理課から田辺課長もお見えになっているので，委員の皆さんと意見交換会を行わせていただきたいと思っている。全体で概ね1時間を予定しており，意見交換については，本日は自治協議会委員との意見交換に限らせていただくので，よろしく願います。

それでは，中原市長，よろしく願います。

○中原市長 今日，区自治協議会の委員の皆様との懇談会ということで，こうした機会をいただき，まずは厚くお礼申し上げます。また，新潟市の新型コロナウイルス感染症の感染者が初めて確認されてから1年以上が経過したが，皆様からは感染拡大防止にご協力をいただくとともに，日ごろより協働の要として地域のさまざまな課題解決にご尽力いただいていることに，改めて感謝を申し上げたいと思っている。

今日は，新年度予算が議会で議決されたので，簡略にご報告させていただきながら，また皆様方のご意見も伺わせていただければと思っている。

まず，講演の前に，年末から今年の1月9日までの十日間わたり，異常降雪となり，市民の皆様が新潟市の除雪対応について大変ご迷惑をおかけした。短時間の降雪量としては10年間で最大を記録し，3年ぶりの大雪となった。本市は平常時の雪であれば大丈夫なのだが，数年に1回のこうした異常降雪への対応力が弱いということが改めて浮き彫りになったと思っている。ピークの1月9日はかき分け除雪から異常降雪時対応に切り替え，ダンプで雪捨て場に運ぶ排雪作業も行い，昼夜を問わず除雪に当たった。各自治会においても，自治会除雪をはじめご協力をいただいたことに改めて感謝を申し上げたいと思っている。

結果として，短時間の大雪のために除排雪作業が追いつかず，公共交通機関の運休や学校の休校，物流が滞ったことに加え，市民の皆様から2,000件を超えるご意見をいただいたところである。そうしたことを踏まえて，去る2月15日に，市で道路除雪検証会議を開催し，情報発信や除雪体制，応援体制などの課題を洗い出し，今後の改善への方向性を明確にした。

今後の除雪体制については，除雪協力業者のマンパワーが不足するといわれており，地域にお

ける高齢化も進んでおり、除雪力がますます低下することを懸念している。市の除雪力を維持し、冬季間の市民生活に支障が生じないよう、今後、具体的に何をすべきかを検討し、対応してまいりますので、よろしく願います。

新型コロナウイルス感染症の感染状況についてはまた後ほど説明させていただくが、新潟県の警報も継続中であり、未だ収束の見通しが立たない状況である。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に負けることなく、市民の命と健康を守ることを最優先としつつ、経済や社会活動を回復させることが喫緊の課題であると考えており、このような状況の中、令和3年度予算を感染防止対策に加え、本市の明るい未来を切り拓くための予算にしたいという思いで編成したので、できるだけ簡略にこれより説明させていただく。

1 ページ目の下段をご覧ください。令和3年度予算についてである。一般会計当初予算の規模だが、昨年との比較で44億円、1.1パーセント減、総額は3,866億円となる。来年度の予算は、コロナ禍の影響によって税収が大幅に減少するので、大変厳しい中ではあるが、直面する課題解決と将来に向けた投資を予算化するために、例年にも増して工夫がいる予算編成となった。国から地方創生臨時交付金という交付金をいただいて市として感染症対策をおこなっているが、こうした交付金を活用して今年度の12月、また2月に、補正予算を140億円前倒しで計上しており、来年度の予算と合わせると総額4,000億円を上回る規模になる。直面する課題解決のために、今年度の補正予算と新年度予算を合わせて、切れ目なく対応してまいりたいと考えている。

次のページをお願いする。行財政改革の取り組みについてである。私が市長に就任以降、令和3年度までの3年間、集中改革を進め、その生み出した効果をさまざまな分野に投資してきた。新型コロナウイルスへの対応という非常事態もあったが、その改革効果の合計は3年間で33億6,000万円となった。その改革効果を生かし、子育て支援等に投資した。市長就任当時、小学校6年生までであった子ども医療費通院助成だが、令和元年度に中学3年生まで通院助成を拡大し、さらに来年度、高校3年生まで拡大する。これにより、高校生までの子どもが医療機関を1回530円で受診することができ、子どもの病気やけがにも安心して受診いただける。全国20政令指定都市中、高校生まで助成しているのは大阪府、静岡県内の4市しかなく、今回の拡充でトップレベルの支援水準となる。

また、経済的に就学が困難な児童や生徒への学用品費の支援をする就学援助制度については、本市は所得に応じた階層性を採用しているが、2か年かけ、真に支援が必要な家庭に、より支援を手厚くする。

下段をご覧ください。予算編成のポイントだが、新型コロナウイルス禍から平穏な日常を回復するために、感染拡大防止対策と経済社会活動の再興の取組みと、後ほど詳しく説明するが、2月に取りまとめた「選ばれる都市 新潟市」の実現に向けた取組みを新年度予算に盛り込み、推進してまいります。

次のページをお願いする。グラフをご覧ください。今日、新潟市は新型コロナウイルス対策本部会議を11時から開催し、市民の皆様にご注意喚起を行わせていただいたところである。このグラフは、人口10万人当たりの感染者数になるが、政令指定都市の中では、新潟市は20市の中では感染者数をおさえては来ているのだが、次のグラフをご覧ください。今の第3波といわれる中で、特に3月に入ってから感染者数が連日10人前後くらい、ここ1週間連続して発生している。また、感染経路が不明な人たちも4分の1くらい出てきており、今、危機感を抱いているところである。引き続き皆さんからご協力をいただきながら、ここで感染が広がらないように対応していきたいと思うので、どうぞご協力をよろしく願います。

それから、そうした感染状況に応じて、新潟市として感染防止対策と、感染症の影響によって経済社会活動が縮小してしまうので、それを再興するために、経済社会再興本部というものを昨年5月に立ち上げ、各業界、各団体の皆様から直接ご意見を聞いて対策を練ってきている。令和2年度は、国の事業になるが、特別定額給付金の支給ということで市民の皆様にご10万円を配らせていただいたのをはじめ、先ほどから申し上げている国の臨時交付金、また、市の貯金に当たる基金などを活用し、約200事業の対策を講じてきている。

次に、ワクチンについてである。これは今日、保健衛生部から田辺課長が出席しているので、

後ほど課長から説明させていただきたいと思っている。

次に、経済や社会活動を再興するために、市内企業がコロナ禍に対応していくために企業同士が連携し新しい事業を行ったり、ITのツールの導入を行ったりするなど、ビジネスモデルを転換させるための取組みに対して、新潟市は支援を行う。また、市内の飲食店は大きな打撃を受けているが、その支援の取組みについては、昨年9月に発行した30パーセントのプレミアム付き地域のお店応援商品券の第2弾を、7月くらいになると思うが、発行させていただきたいと考えている。また、地域の割烹などを対象に、地域で弁当交流応援事業を3月1日からすでにスタートしているが、利用可能なお店をこれまでの割烹からホテルなども対象にしている。また、利用できる方の範囲を、これまでは地域の自治会、PTAなどだったが、企業の皆様にもご利用いただけるよう拡充を行い、頑張る地域のお店などを支援していく。

次に、観光分野の活動の再興に向けてということで、観光分野は外出の自粛、緊急事態宣言など、コロナ禍になってから大変な状況になっていることは皆さんご存じのとおりである。旅行といふところまでは遠方に行って宿泊したりして、県外で観光されてきていると思うが、地域のいいところがたくさんあるのだが、実は行ったことがないようなところ、こういう近距離の地域の魅力を再発見することをマイクロツーリズムというが、そうしたものや、オンラインを活用して新しい観光スタイルの構築を推進していきたいと思っている。オンラインの活用では、旅行前に、例えば、オンライン動画などで酒蔵見学をして、旅行中には実際にお酒や食べ物を楽しみ、気に入ったお酒を旅行後にウェブサイトで購入してもらえようにするなど、実際に訪れた際の満足度やリピート意欲を高める仕組みをパッケージ化したハイブリッド型観光を推進していく。また、観光マインドの向上や消費活性化を図るとともに、MICE誘致についても、今後の回復に向け、昨年補充した補助制度を引き続き継続する。また、市民の文化活動の再開、継続に向けては、市民参加型の公演の開催などを支援する。

下段をお願いする。令和3年度予算は、先ほど申し上げたように、二つの大きな柱というかポイントで編成させていただいている。一つは、感染拡大防止対策と経済社会活動の再興に向けて。そしてもう一つが、「選ばれる都市 新潟市」ということで、私から今年の2月に公表させていただいた。

なぜ今なのかということだが、あくまでも今は新型コロナウイルス感染症がまだ収束していない中で、感染症対策が最優先の課題ではあるのだが、間もなくワクチンの接種が始まり、いつかは落ち着いて収束を迎えると思っている。そういう中で、現在、感染症の影響によって人々の価値観や、企業の皆様の意識が変化して、社会の大きな変革期を迎えていると思っている。そうした中、本市においてもまちづくりの大きな転換期にあると認識している。このようなときに本市の新しい未来を切り拓くため、市民の皆様にお示しすべきと考え、まちづくりにかける思いをまとめさせていただいた。この中でお示したまちづくりの思いの内、すぐに実行に移せる部分は来年度予算にも計上して取組みをスタートさせていただきます。

下段をご覧ください。「選ばれる都市 新潟市」の内容だが、これからのまちづくりの基本的な方向として3点にまとめさせていただいた。まず一つ目は、新たな都心軸の誕生である。新潟市では新潟駅周辺整備事業に取り組み、例えば、先般、道路がオープンし、新潟鳥屋野線という道路が八千代橋からずっと駅南に向かって、線路の下に道路が南北に行き来できるようになった。こういう事業が進んでいるところである。それに加えて、今後はJR新潟駅の駅舎や万代広場が間もなくリニューアルされる。古町地区では古町ルフルが完成し、三越の跡地も、ちょうど1年たったが今、再開発に向けて動き出している。そうした節目の中で、図でお示した新潟駅から万代、古町をつなぐエリアを、市民の皆様から改めて身近に感じたり期待を持っていただけるよう、実は都心軸という堅苦しい名前だったのだが、これを「にいがた2km」という名前をつけてもらい、このエリアを人・モノ・情報が行き交うかせげる都心となるよう活性化して、その勢いが新潟市全体に行き渡るようまちづくりを進めていきたいと考えている。

次のページをお願いする。二つ目の基本的な方向は、8区のネットワークの深化ということである。これはどういうことかということ、都心エリアと8区の事業者などがお互いに連携して新しい価値を生み出すことで、波及効果を全体に広げるという考え方である。

まず、かなりさかのぼるが、江戸時代における都心部と8区との関連性についてだが、当時の

新潟湊では、皆さんご承知のように、北前船に象徴されるように大型の千石船で大坂や蝦夷地である北海道と交易し、廻船問屋という豪商が店を並べていたそうである。この図は、江戸時代の新潟湊と川沿いに広がる主な取引の拠点を示したものである。当時、新井郷川や小阿賀野川、加治川、中小河川に沿って、四角印が川に沿って点在しているが、これが下り荷売却先である。これは何かというと、いわゆるスーパーというか市場が点在し、北前船のシステムと同様に、船主が各所で米や物資に付加価値をつけて売り買いし、仕入れ値と売値の利ぎやで稼いでいたということである。こうした港と郊外の田園地域を網の目のように結んだ河川を物資が往来する舟運ネットワークによって、新潟湊の豪商と、田園地域では1,000町歩を超える大地主などが繁栄していたということである。つまり、江戸時代から都心と8区のつながりがあり、そのつながりは今の令和の新潟の時代にも生きておると考えており、この事業ネットワークを今後の新潟の発展のかぎとして活用していきたいと考えている。

次の図が私の考える事業ネットワークを表したものである。都心エリアが人・モノ・情報が集積するプラットフォームとしての役割を果たすことを期待している。8区には、もちろん南区もそうだが、多種多様な人材がいる。それから当然、商売していらっしゃる事業者の皆さんもいらっしゃる。それから地域資源もたくさんあると思っている。農水産物もあると思う。それらと現在、都心エリアにデジタル技術を駆使する新進事業者などがいるが、そこがつながり合うことで、都心と8区を結ぶ広大な事業ネットワークが誕生する可能性があると考えている。この事業ネットワークによって連携・協業が新たな価値を生み出して、そのことによって生み出された新たな価値が都心を通して広く発信され、新潟市が国内外から注目されると期待している。

なお、三つ目の基本的な方向は、資料に図のようなものはないが、これまでも新潟市は国や県と連携しながら、高速道路や新幹線、空港などのインフラを整備してきた。今後も拠点化プロジェクトを国、県と連携を深め、推進していきたいと考えている。

最後に、取りまとめとして、選ばれる新潟市を実現していくためのイメージをそこに書かせていただいている。左側が、先ほど申し上げたように、新型コロナウイルス感染症が発生してから人々の価値観や企業の皆さんの意識が変化してきたということであり、それから右側は新たな都心軸の誕生という転換期を示している。その状況の中で、新潟の強みである食と農といった強みを最大限生かして、訪れたいまち、ビジネスを展開するまちを実現して、本市の拠点性をさらに高めていくことで、「選ばれる都市 新潟市」を創っていききたいと考えている。

次をお願いする。ここからは新年度の新たな取り組みになるが、本日は、個々にご説明する時間がないので、項目だけ紹介させていただく。子育て・教育環境を充実ということについては、先ほど申し上げたことも医療費助成の拡充、多胎児支援、それから病児・病後児保育の充実。それから、教育の分野では、現在、教育委員会でGIGAスクール構想を推進している。また、出会いから結婚まで切れ目ない支援を行っていききたいと考えている。

次に、健康長寿社会の実現ということで、認知症の方や、家族への支援体制を充実していきたいと考えている。また、健康な状態と要介護の中間の状態をフレイル、虚弱と言っているが、現在、フレイル予防に取り組んでいるが、拡充していきたいと考えている。

次に、『暮らしやすさ』を市内外にアピールするため、新潟暮らし創造運動の推進として、市内外に新潟の暮らしの魅力を積極的にアピールし、新潟への移住促進や、若者が流出することを抑制していきたいと考えている。また、東京から移住、就業する方への支援も拡充していく。

次に、まちを活性化し、にぎわいを創出するという部分については、『新潟都心の都市デザイン』を推進するとともに、都市再生緊急整備地域の指定に向け、現在、国と調整を進めている。次に、都心のまちづくりを推進するために、古町地区の食や街並みといったコンテンツの創出を支援していく。古町地区は三越が撤退してから厳しい状況になっているが、空き店舗活用への支援を行っていく。また、古町花街の歴史的な街並みを保存するため支援していく。

経済活力を生み、雇用を創出するという部分については、デジタルトランスフォーメーションのプラットフォームを構築していく。また、中小企業生産性向上設備投資支援を行っていく。製造・物流業の企業立地への支援もしていく。

次に、『食』と『農』の強みを生かすという部分については、スタートアップ企業と市内企業の協業を促進していく。また、今は海外との商談が難しい状況にあるが、オンラインを活用する

などして、新潟の食の輸出の拡大を図っていきたいと考えている。

最後になるが、儲かる農業の実現に向けて、元気な農業を応援していく。また、園芸作物の販路拡大に向け、オール新潟体制で販売促進を展開していきたいと考えている。

以上、駆け足だったが、新潟市の新年度の主な取組みについてご説明させていただいた。引き続き皆様方から市政へのご理解とご協力をお願いしたいと思っている。

○議長（小田会長） 続いて、新型コロナウイルス感染症ワクチンに関して、保健衛生部の田辺課長から説明をお願いします。

○田辺保健管理課長 保健衛生部保健管理課の田辺である。本日は、貴重なお時間をいただき感謝する。

日ごろより、新型コロナウイルス感染症対策ということで、皆様方からは感染対策ということで手洗いの徹底やマスクの着用など、ご協力いただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

私からは、新型コロナウイルス感染症ワクチンということで、新型コロナウイルス感染症対策ということで非常に期待されているものだが、新潟市においては今年の初めから準備を進めてきており、先ほどの資料にもあったが、2月1日に保健所内に10名というワクチン専門のチームを作らせていただき、準備を進めているところである。

今日配付させていただいた、こちらの1枚の紙をご覧ください。新型コロナウイルス感染症ワクチンについては接種券が必要ということになり、この19日から順次発送させていただいている。このような黄色のものだが、すでにお手元に届いている方もおられると思うが、市内は広いので、郵便局のエリアによっては月末くらいまでかかるのではないかと思うので、まだ到着されていない方については月末までお待ちいただきたいと思っている。

本市においては、65歳以上の方にはまず接種券を配布させていただいている。このワクチンについては、本来、16歳以上ということなのだが、16歳から65歳未満の方については65歳以上の方がいる程度終わってからのめどがついてから、準備次第発送したいと考えている。

接種券は発送させていただいたが、報道で皆様ご承知のように、なかなか国からワクチンの供給がまだ非常に不透明だということがあり、4月については非常に少ない量で、恐らく、今の見込では、本格的な実施は、その資料にも書かせていただいたが、予約・接種は5月以降になるのではないかと見込んでいる。本市において65歳以上の方は約23万3,000人おられ、なかなか皆さんすべてを一気にやるというのは難しいところがあり、感染時の重症化リスクというも考慮して、新潟市としては75歳以上の方から順次接種を実施していきたいと考えている。

接種の予約方法などについては、28日、今日の日曜日の市報にいがたに臨時号ということで、今日はまだ配布できないが、このような市報を新聞に折り込む予定にしているので、到着したら皆さん、ご確認いただけたらと思っている。この市報にいがたには、ワクチンのメリット、デメリットということで、ワクチンを受けていただくことで高い有効性があるといわれているが、やはりどのワクチンであってもメリットとデメリットがあるということなので、しっかりとご理解いただいたうえでお願いしたいということで、ご確認いただきたい。そのほか、接種までの流れや感染対策といったものについても改めて載せさせていただいているので、ご確認いただきたいと思う。

接種券を送らせていただいたが、今のところ5月以降になりそうだといいところもあるので、資料にも書かせていただいたが、大切に保管していただきたいということをお願いしたいと思っている。

また、資料の一番下に新型コロナワクチンの専用コールセンターを、市報にいがたを出す28日の同日に開設することになっている。今後はこの電話番号、市報にいがたにも電話番号が書いてあるが、こちらにお問い合わせをいただく、あるいは接種が本格的に始まったら、集団接種の場合はこちらで予約いただくという形になる。詳しくは、市報にいがたやいろいろな広報媒体を使ってお知らせしていきたいと考えている。

繰り返しになるが、今回、この場をお借りしてご説明させていただいたが、現在、皆さんにはこのチラシに大事なところを書かせていただいているので、改めてこちらをご確認いただくとともに、28日の市報にいがたをご覧くださいと思っている。

皆さんにお願いだが、もし知り合いの方から、こんなものが届いたのだけれどもどうすればい

いのだろうというお問い合わせがあった場合には、本格的な接種は5月以降になりそうだと。それまでは大切に保管しておいていただきたいと。あと、28日の市報にいがたに詳しく載るといったことをお伝えいただければ幸いです。

私からは以上である。引き続き、感染対策にご協力をよろしくお願いする。

○議長（小田会長） 市長，田辺課長，ありがとうございました。

続いて，申し上げたとおり市長との意見交換に移らせていただく。できるだけ多くの委員から発言をいただきたいので，発言の内容については簡潔に，短めにいただければと思う。

それでは，発言なさりたい委員の方は挙手をお願いする。

○阿部委員 阿部である。中原市長に意見と要望だが，よろしくお願いする。自治協議会の理念である市民と市が協働する事業の一つのシンボルである白根大凧合戦が今年もやって来る。たまたま私自身は白根凧合戦協会の事務局長をしており，この祭りが自治協議会と深くつながっていると考え，この場をお借りして，今年の大凧合戦についての要望を述べさせていただきたい。

ご存じのとおり，白根大凧合戦は新潟県及び新潟市を代表する初夏の祭りとして広く認知されている。この祭りは江戸中期にその端を発し，明治45年，レルヒ少佐から優勝旗を寄贈されたことで白根凧合戦協会が設立され，現在の形に至っている。昨年はコロナ禍で73年ぶりの中止となり，今年も新型コロナウイルス感染症が完全に制圧できない中，何とか開催できないかということで，思案しているところである。白根大凧合戦は市内のどこにでもいる青年，お父さん，おじいちゃん，お母さん，おばあちゃん，そして格好いいと褒めてくれる若い娘さんで成り立っている。いずれもプロではない。凧揚げの職業の人もいない。みんな凧以外の職業に就き，日々仕事で精も根も尽き果てる中，それでもなお凧が好きな人たちが集まっている集団である。私が非常に危惧しているところは，2年連続揚げないとなると，その口承文化，大体口で伝えて，見よう見まねでやっているのが凧合戦なのだが，それが消えるのではないか。また，各組独自の伝統の技が薄まるのではないかと。2年連続というのは避けたいというのが私の本音である。ぜひとも今年の大凧合戦を開催させていただきたいと思っている。そのために，市のバックアップのもと，新型コロナウイルス感染症対策を十分におこない，さまざまな施策を講じて，市と協働でこの伝統の大きな祭りを開催できればと思っている。新型コロナウイルス感染症対策への予算，人的なお手伝い等，これからまだ要望，課題が多いが，中原市長から力強いお言葉をいただければ，コロナ禍で参戦するか否か悩んでいる凧合戦従事者，凧組の人たちに勇気を与えることができるのではないかと考えている。何とぞ，白根大凧合戦開催に向けて，中原市長からメッセージを頂戴したいと思う。よろしくお願いする。

○議長（小田会長） 阿部委員から，何とか南区の大凧合戦に支援をとということお話である。市長，コメントを一つお願いする。

○中原市長 先般の議会においても，国や市の見解についてご質問があった。昨年は新型コロナウイルス感染症が未知のウイルスであるということで，残念ながら大凧合戦については中止になってしまい，地域の皆様も大変残念に思っておられると思っている。まだ今は，先ほど申し上げたように，新型コロナウイルス感染症が完全に収束していない中で，こうした事業を地域の中でおこなうことについては，多くの皆さんが悩んでおられると思っている。また，南区においては関係者の皆様が開催に向けてご努力なさっているとお聞きしている。

我々も，阿部委員からご発言があったように，祭りについては全く同じ認識であり，正式に決定したら，我々として全面的にバックアップさせていただきたいと思うが，まだ感染症がどのように拡大していくかということがなかなか把握できないので，ぜひ，区と，我々もしっかりバックアップさせていただくが，よく相談しながら進めさせていただければと思っているので，どうぞよろしくお願いする。

○川村委員 大郷地区コミュニティ協議会の川村である。お弁当一部補助事業の件でお話しさせていただきたい。

12月中旬から始まった地元飲食店&地域交流応援事業が2月末で終了し，3月から，地域で弁当交流応援事業と事業名を変えて6月まで継続するという事を自治協議会の全体会で説明を受けた。私も自治会とコミュニティ協議会で利用した。このお弁当代金の一部補助事業は，中心地のお店もそうだが，私が住んでいる大郷地区のような人口の少ない農村集落や郊外に昔から

ある仕出し割烹などのお店も利用できるのも、とてもありがたいと思っている。また、利用できるお店が増えることで、私のような農家の野菜などを使っただけ、また、そのお店にかかわるさまざまな業種の皆さんの売上げの貢献にもなっていると思う。昔から地域に根づいている地元の仕出し屋、割烹などが少なくなならないように、今後とも市からの支援をお願いしたい。よろしく願います。

○議長（小田会長） 非常に好評なお話である。市長からコメントをお願いする。

○中原市長 地域における料亭、割烹は、地域の拠点であり、皆さんの集会をする大事な場になる。ただし、新型コロナウイルス感染症が発生してからは大打撃を受けており、それによって、今お話があったように、食材の仕入れ先である農家などさまざまな業者の皆さんが同じように苦境にあえいでいるという中で、新潟市としては、昨年からのお弁当支援事業を継続させていただいている。

南区においては、ほかの区よりもかなり多くご利用いただいているということで、個人的にも大変うれしく思っている。先ほど申し上げたように、3月1日からは、地域の活動団体に加えて企業の皆様からもご利用いただけるようになったということで、ぜひ、その辺りをPRしていただいて、以前のように飲食しても大丈夫だというまでにはもうしばらく時間がかかると思うので、大変ではあると思うが、こうした応援事業によって地域の割烹や料亭を応援していただければと思っている。どうぞよろしく願います。

○渡邊（喜）委員 老人クラブ連合会から来た渡邊である。一つお願いがある。

暮らしやすい町ということで、健康や福祉あるいは教育、子育てなどあるので、非常に充実しているのだと思う。その中で、今、資料をもう一度見てみたのだが、ぜひ、安全・安心の面で、防災対策がしっかりしているところをプラスしていただければ、よそから来る人も非常に安心して長く住んでいただけるのではないかと思っている。新潟の場合はどこにいても防災対策をしっかりしないとだめなのではないかと思うので、緊縮予算を踏まえると、防災積立金などほどの程度あるのか私は分からないが、その辺も含めて、今後、充分注意をお願いしたいと思っている。

○議長（小田会長） 防災に力をというご意見である。市長、よろしく願います。

○中原市長 大変重要なところをご意見いただいたと思っている。先ほど、冒頭お話ししたように、今年の3年ぶりの災害級の大雪で除雪費に95億円もかかってしまった。こうした除雪の対応についても、できることはしっかりと検証して、よりよい除雪をこれからやっていかなければならないと思っている。

先日、東日本大震災の余波のような形で地震が発生したが、安心・安全なまちづくりについて、我々もしっかり取り組んでいきたいと思っているが、それぞれの地域の皆さんからもさまざまな防災対策にこれからも取り組んでいただきたいと思っているので、どうぞよろしく願います。

○松尾委員 スポーツ協会の松尾である。私は中原市長が市長になったときから非常に期待しており、それまでなかなか私も不満があったのだが、非常にいい事業をやっていただいて、ありがたく思っている。

今、新型コロナウイルス感染症の関係で昨年から非常に厳しい状況になっている。やはり経済対策と感染症対策と、そして我々がやる事業もどのようにして活動していったらいいのかということが一つある。それと、手洗い、マスク、三密回避をしっかりとやっていてもクラスターが出ているのかどうか。それとも、少し手抜きをした中でそれがうつっているのかということ。

今、保健管理課長から報告があったが、ワクチンの関係で、本当にワクチンを打ったら効果が出てきて行動していいのかどうか。要するに、ワクチンを接種したから私は大丈夫だということで行動したことによって、また問題が起きやしないかと思っている。その辺の、接種後の基準を設けていただき、経済を回して、我々もスポーツ関係の大会等を活発にやりたいものだから、市長からも頑張れよ、やれよと声をかけていただければありがたいと思うので、ひとつよろしく願います。

○議長（小田会長） まず、市長から少しお答えいただき、田辺課長からワクチンに関して少しお話をちょうだいできればと思う。

○中原市長 ワクチンをしたからすぐに大丈夫ということではない。後ほど田辺課長から改めて

お答えしたいと思っている。

それから、経済の再興と命の両立ということは、これまでもさまざま人が疑念、疑問に思っ
てこられていると思っている。もちろん命が最優先であることはいまでもないと思うが、しかし
一方で、やはり社会活動や経済活動が上手くいかない、また命との関連性も出てくると思っ
ている。そういうことで、我々も感染拡大防止と社会経済活動の両立を進めていくのだと言わ
せていただいている。繰り返しになるが、あくまでも市民の皆様の命と健康を守ることが最優先
であると思っている。

そういう中で、この段階であればこういう社会経済活動をしなくても大丈夫なのだと明確に私
も申し上げたいのだが、しかし、現実にはしっかり皆さんから感染症対策をやっていただい
ているもの、やはり感染症をおさえることは大変難しく、感染者がぼつぼつと発生している
状況にあると思っている。その中で、もう少し、こういう行動をすれば、感染のリスクが非
常に高まるのだということを皆さんにお伝えすることができれば、皆さんも、そうかと、こ
ういうことをしてはだめなのだなということが、恐らく、合点が行くと思うのである。な
かなかプライバシーの問題などで、具体的なことを皆さんに伝えることができていない
のが現状なのではないかと、個人的には思っているところである。

ただし、少しだけお話しさせていただくと、やはりマスクをしなかったとか、長時間の飲
み会をやり過ぎたとか、そういうことによって今、感染が広がって、そして、それが家
庭内に広がって、感染者が広がっているということは事実として申し上げたいと思う。ぜ
ひ、今後とも皆さんから気をつけていただくようお願いしたいと考えている。

○田辺保健管理課長 ワクチンについては先ほど、28日に市報にいがたが出るということで、
またご確認いただきたいのだが、そこに専門家の、ワクチンについてただしく理解してく
ださいというものが載っている、そこを見ていただきたい。まず、ワクチンについては高
い有効性があるということで、接種していただき、集団免疫というものがあり、ある程
度多くの方が受けていただいたときに集団免疫ができてくると、感染がしにくくなっ
てくるということなのだが、残念ながら、ワクチンの供給量なども少しずつ、新潟市
ではまず高齢者にやって、その後一般の方をやると、ある程度かかってくる。市報
にいがたの中にも書かせていただいているが、接種後も、先ほど市長からお話があ
ったが、やはりしばらくは感染対策を並行していただかないと、なかなかワクチン
を打ったからといってすぐに感染が止まるということではないということをご理
解いただきたいと思っている。市報にいがたも改めてご確認いただけたらと思う。

あと、先ほど、感染がどのようなところでというお話があったかと思うが、私
たちが調査している中で、やはりこのようにお互いにマスクをしていたり、こ
ういうパーティションがあるとか、ある程度距離を取るとか。このウイルスは飛
沫感染、つばだが、あとは接触感染ということで、マスクなしでくしゃみをした
ときに、手にウイルスがついたものを、例えば、いろいろなところを触ったり、
それをまた別の人が触って顔を触ったりということになるので、やはりマスク
や手洗いは非常に有効で、特に感染者が増えているところを調査していくと、
やはり飲食の場はどうしてもマスクができなくなる場合が多いし、家庭でも
マスクがされない場合が多くなる。そういったところはどうしても感染が
拡大しやすいという状況はある。あと、同じ飲食の場であっても、いろいろ
呼びかけさせていただいているが、あまり長時間にいたりすると、やはり
どうしても機会が増えとかそういったこともあるので、このようにマスクとか
手洗いをしている状況ではあまり感染が出ていないということが調査の中
では出てきている。

○議長（小田会長） 時間も刻々と迫っているので、もうお一方、発言を
いただきたいと思う。

○田中委員 庄瀬小学校で地域教育コーディネーターをしている田中である。
よろしく願います。

2021年度の予算に子ども医療費が高校生まで通院も助成対象として
いただいたことは、私自身、高校生になる子どもがいるので、非常に助かる。
しかしながら、南区、特に私の住む村部である庄瀬地域の人口減少、
子どもの減少は深刻である。どうか、中原市長には今後も子育て
支援にご尽力いただき、南区の人口減少が少しでも改善されるよう
に願います。

○議長（小田会長） 冒頭の説明で高校生まで医療費の助成を延長
されたが、このことについて、改めてご発言いただきたい。

○**中原市長** 人口減少について、我々新潟市も大変な危機感を持っているところである。やはり、子どもが元気に遊んでいたりと、地域に活気が出ると思っているし、経済や将来の地域の担い手としても、子どもの育成は大事だと思っている。引き続き子育て支援の充実を図りながら、人口減少対策に取り組んでいきたいと思っているので、今後ともよろしく願います。

○**議長（小田会長）** まだまだ大勢の方からご発言いただきたいところであるが、市長は次の日程を控えている。西区自治協議会へ出向かなければいけないそうである。残念だが、またこの次の機会に懇談をお願いしたいと思っている。大変ありがとうございました。

○**中原市長** どうもありがとうございました。

それから、今回、小田会長をはじめ自治協議会役員の皆さんで任期を迎える方がかなりいらっしゃるとお聞きした。これまでの間、地域において新潟市との協働の要としてさまざまな形でご尽力いただいたことに改めて感謝申し上げます。引き続き、どうぞよろしく願います。ありがとうございました。

○**議長（小田会長）** ありがとうございました。

それでは、これをもって市長と自治協議会委員との懇談会を終了させていただく。市長、ありがとうございました。

○**中原市長** ありがとうございました。

○**議長（小田会長）** なお、次の日程に入る前に、会場の場面転換を図らせていただく。若干休憩させていただきます。次の開会を3時10分にしたいと思うが、いかがか。3時10分までに会場にお戻りいただきたい。3時10分に開会を宣告する。

（休 憩）

3 「南区まちづくり活動サポート事業」の実施報告

○**議長（小田会長）** 第12回南区自治協議会を再開する前に、事務局から資料の確認をお願いする。

○**事務局（鈴木地域総務課長補佐）** （配付資料の確認）

○**議長（小田会長）** 引き続きの会議である。ご苦労さまである。先ほどの会議でお気づきのとおり、ちょうど1年ぶりにこの形態で委員各位の顔を見ながらの会議にさせていただいた。ようやくパーティションの準備が整ったようである。少し会場が狭いきらいもあるが、これはご容赦いただければと思っている。

1年前には想像もつかなかった時代である。何とか次には、次にはと思いつつ、とうとう年度を越してしまうことになった。先ほどの田辺保健管理課長のお話にもあったように、ようやく5月からワクチンの接種が始まるそうである。少しでも早い時期に収束できればと思っている。100年前のスペイン風邪のデータを見ると、集団免疫が完成して収まるまでに、残念ながら3年かかっている。日本の場合、第1波よりも第2波、第2波よりも第3波の犠牲のほうが多かったやに記録で見る限り伺い知れる。何とか、先ほどの説明のワクチンの効果、治療薬の早期普及で一刻も早くこれが収束できればと思っている。そのためにも、私たち自治協議会、最後の会議になったが、しっかりと議論し、次につなげて行ければと思っている。

本日はお天気の中お集まりいただき、本当にありがとうございました。ただいまから、第12回南区自治協議会を開会する。

欠席者の報告

傍聴者の報告（所定の手続きを経て、傍聴していることを確認）

それでは、会議に入る。次第3、南区まちづくり活動サポート事業の実施報告に入る。今年度の実施事業を順次報告していただくので、よろしく願います。

はじめに、新潟市食生活改善推進委員協議会南支部の「かんたん おいしい おうちごはん」レシピ集作成事業について、説明と報告をいただく。食生活改善推進委員協議会南支部から願います。

○**新潟市食生活改善推進委員協議会 南支部** 新潟市食生活改善推進委員協議会南支部支部長、田村順子である。

○小嶋委員 小嶋ノリである。

○新潟市食生活改善推進委員協議会 南支部 お手元にピンクのレシピ集が完成した。ピンクが食生活改善推進委員のイメージカラーである。どうぞご覧いただきたい。

提案事業名、「かんたん おいしい おうちごはん」レシピ集作成事業。

事業内容、1, 家族が調理体験を通して食事の大切さや親子のコミュニケーションの充実を図るために、特産物を生かしたレシピ集を2, 000部作成した。

2, 地産地消, 減塩, バランス, 手軽・かんたんに作れるの四つのポイントを踏まえた内容の料理レシピ集を作成した。

3, エネルギー, 塩分, 調理レベル, ワンポイントアドバイス, 手書きの挿絵を入れ, 親しみやすい冊子にした。そして, 文字の大きさも大きくして見やすくした。

4, 南区の各地域生活センターに150部ずつ配置, 配布した。反響が大きく, 残りがわずかとなった。

5, 南区役所ホームページへの掲載。

評価と課題, 目的と成果。地産地消, 減塩, バランス, 手軽・かんたんの四つのコンセプトで, 食推のおすすめを選び, 一つのレシピ集にまとめた。子どもから大人まで, 家庭での調理体験を通して食育に興味を持ち, 健康的な食生活を身に着けるきっかけづくりになってくれればと願っている。

今後の取り組み。1, レシピ集を使って学校・地域での調理実習を実施していきたいと思っている。

2, 調理実習のとき, 子ども対象にオリジナルバンダナをプレゼントし, 親子で調理を行うきっかけにしてほしいと思っている。

3, 新潟市食育センターのクックパッドに掲載予定である。

4, 南区の特産を使って調理をし, おうちごはんを楽しんでいただけたら嬉しい。

その他として, FMにいつから出演依頼があり, PRしてきた。新聞, 新潟日報にも掲載され, 学校から今後の授業で使いたいと声がかかった。今後, いろいろな方とこのレシピ本でつながっていかれたらと思っている。

○議長(小田会長) ただいまの説明について, 委員の皆様方からご意見, ご質問, あるいは感想があればご発言いただきたい。

○川村委員 大郷地区コミュニティ協議会の川村である。

先ほど, できたものを読ませていただいた。とても分かりやすく, 簡潔に書かれていて, とてもいいレシピ集だと思う。また, 最後のほうで地元の野菜や特産物を書いてあり, 私は個人的にきゅうりを作っているのだから, 南区のきゅうりが県で一番の生産量を誇っているということが書いてあったことをとてもうれしく思う。

これは今後, 続編などを出していく予定なのか。

○小嶋委員 とにかく地域生活センターにお配りし, 1週間であと5冊というような状態がどこの地域生活センターでもおこっている。残りが150冊くらいしかないという状態になったので, 今後, お金を出してまた印刷をかけてもらうことになる。学校の先生が授業で使いたいと言ってくれたときは本当にうれしかった。

○議長(小田会長) 大変好評のようである。

○川村委員 私も次にもし出ればそういったものも見てみたいと思うので, よろしく願います。

○鞠子委員 今の川村委員の意見に少し附随するのだが, 原信などに行くと入り口にレシピのカードが置いてある。女房にこれを作ってくれとよく渡すのだが, 逆に言うと, こういうものが南区の, 先ほど市長が言っていた地産地消のようなものであるならば, 産業振興課がこういうレシピを作るから, ああいう業者にお金を出してもらってでも置けるような形にさせていただくのも一つ。自分たちが食べる物を, それこそ川村委員が作ったきゅうりを食べているのだというようなものが, やはり子どもの教育にも大事だし, そういうことを行政に少し動いていただくのも一つの知恵ではないかと。生意気な意見だが, ご参考願いたい。

○議長(小田会長) 大変貴重なご意見をいただいた。

ほかに何かあるか。

ないようである。それでは、新潟市食生活改善推進委員協議会南支部の皆さんがたの「かんたん おいしい おうちごはん」レシピ集作成事業の説明を終わらせていただく。

続いて、白根子行進曲を通じて白根の100年後を考える実行委員会による白根子行進曲南区ブランド力アップ事業の発表をお願いします。

○白根子行進曲を通じて白根の100年後を考える実行委員会 皆さん、こんにちは。白根子行進曲を通じて白根の100年後を考える実行委員会である。本日は、令和2年度の南区まちづくり活動サポート事業について発表する。提案事業名は白根子行進曲南区ブランド力UP事業である。よろしくをお願いします。

事業内容としては、主に白根商店街の活性化をはかるため、コロナ禍でも可能な発信活動をおこなった。具体的には、資料に記載した2点を実施した。一つ目は、地域のしろね大風タウンガイドと連携したまち歩きの実施をおこなった。まち歩きの目的としては、白根子をテーマにした白根商店街内のまち歩きを実施することで、区内外の方への白根の歴史を知り発信することである。まち歩きは2回実施した。1回目は令和3年2月23日祝日13時から14時、2回目は令和3年2月28日日曜日13時から14時30分である。それぞれ4名、3名の方からご参加いただいた。白根子をきっかけとして白根商店街に来た方に、白根子行進曲復活の起源となった白根大火などをはじめとした白根の歴史をレクチャーすることで、白根商店街の歴史や由来を知っていただき、発信することができた。参加者の感想として、レトロな街並みを知れてよかった、白根子のもとになった歴史を知ることができ、魅力的なまちであることを実感した、今後もぜひ訪れたいと、まち歩きを通じて白根のまちのPRを実施することができた。こちらのまち歩きのようすはBSNの夕方のニュースでも放送され、白根の町のPRにつながったと思っている。

二つ目は、白根子で仮装したカフェの開催である。目的は二つある。一つ目は、白根商店街の店舗を活用することで、商店街を訪れた方との交流を図ること。二つ目は、通常オープンしていないイベントスペースを活用することで、商店街でオープンしている店先を増やし、商店街のにぎわいを生み出すことである。実施としては、まち歩きと併せて2日間実施した。日程としては、令和3年2月23日火曜日祝日、11時から16時30分及び令和3年2月28日日曜日11時から16時30分の2日間開催した。2日間合計で40名が白根子カフェを訪れ、コーヒーや白根子サンドイッチを購入したり、地域内外の方が会話を楽しんだ。訪れた方からは、白根に住んでいるわけではないが、このような交流できる機会があると非常によいし、来たいと思う、外出の機会が減ってしまったので、こういう機会があればぜひ参加したいという話もあった。また、スペースを訪れた方が白根子や白根の歴史などのお話で盛り上がり、過去の新たなお話が聞けるなど、交流によって地域の歴史を知る場にもなった。

カフェでは、高校生を中心にコーヒーを提供したりサンドイッチを提供したりした。また、白根子行進曲や白根商店街であってほしいことを付箋に書いていただき、皆さんが考えていることを調査した。付箋には、白根の歴史を聞きながらカフェでお話をする機会があるといいという意見や、白根子のファッションショーをしたいなど、地域に何があるといいのかという意見もいただいた。このような意見を踏まえ、今後の活動に生かしていきたいと思っている。

最後に、活動の評価と課題についてである。まず、成果としては、まち歩きや白根子カフェを通じて、白根商店街や白根の歴史を発信することに寄与できた。また、コロナ禍でも感染リスクを低くしながらも交流できる場の機会をつくりだすことができたと思っている。そのほか、メディアやSNSなどを活用して、活動を通じて白根地域のPRを実施することができた。

メディア発信については記載のとおりである。新潟日報の朝刊及びBSN夕方のニュースで放送された。資料には夕刊となっているが、朝刊の誤りなので、訂正する。

次に、課題についてである。大規模なイベント実施はまだ難しいと思われるため、今後どのようなかわり方で実施していくか、検討する必要があると思っている。また、本年度は実行委員会の組織化を進める予定だったが、コロナ禍で集まることができず、想像以上に組織化を進めることが困難となり、当初の予定どおり実施することができなかった。コロナ禍も今後は多少なりとも沈静化すると期待して、今回の白根子カフェのようにリスクを避けた形での実施方法があることが分かったので、今後の実施について、さらに検討していく事項としたいと思っている。

○議長（小田会長） 説明の方をご覧になってお分かりかと思うが、事業には白根高校の皆さん方からも積極的に参加していただいたそうである。今の説明をお聞きになって質問やご意見、ご感想をお願いします。

○久保委員 小林コミュニティ協議会の久保である。

このたびの白根子行進曲というイベントだが、最初、私自身、白根子行進曲というのは過去に歴史を見ると、1回、大火のあとにやっただけということで、このこと自体にはそれほど魅力はないのかなと思っていたのだが、一昨年開催したときに、メディアでも非常に話題になったり、また、参加者も、高校生を含めて非常に頑張って、皆さん一生懸命やっておられて、かなり反響もあったと思っている。私が2年前に白根の街並み、これだけずっと長く商店街、件数も多くあるところは本当に全国的にも非常に貴重だという話を新潟大学の岡崎先生が白根に来て講演された。それだけではなかなか白根の魅力が伝わらないのかなと思った。白根子行進曲という、発信力をこれから持っていきそうなイベントができたわけなので、白根の街並みも含めて、白根子行進曲の皆様でまたさらに魅力を高めて、勉強されて、魅力をどんどん発信していただきたいと思っている。これからも期待している。

○白根子行進曲を通じて白根の100年後を考える実行委員会 今回も白根大風タウンガイドと協力して、白根の歴史を知って、白根子行進曲がなぜ行われたのかという歴史を、いらした方々にまちを説明しながら、白根大火の話などもさせていただいて、ただ奇抜なイベントがあったというだけではなく、なぜそのイベントが当時行われたのかという話もさせていただき、白根に住む人もそうではない人も白根の歴史を知っていただくという機会を作ることができたので、とてもいい機会だったと思っている。

○議長（小田会長） ほかにご発言があればお願いします。

ないようである。これをもちまして、白根子行進曲南区ブランド力アップ事業の報告を終了させていただきます。

続いて、下茨自治会による下茨こどもの居場所づくり&食堂開設・丸太切り大会である。説明をよろしくをお願いします。

○下茨自治会 下茨こどもの居場所づくりと食堂開設・丸太切り大会の結果を報告する。下茨は果物栽培が盛んで、来月上旬には一斉に開花し、1年で一番華やかな桃源郷風景を迎える。戸数は88軒、280人で構成しており、小学校児童が10軒13人、高齢一人世帯が10軒、二人世帯が22軒である。年々少子高齢化が進行し、住民同士の交流が薄れているところに新型コロナウイルス感染症の影響が重なった現状を打開すべく、応募させていただいた。

事業内容は、昨年11月15日午前10時から午後4時に三つの事業を実施させていただいた。こどもの居場所づくりを開設して子育て世帯を応援するということである。参加者が37人。そのままお昼になり、食堂を開設して全員で昼食を美味しくいただいた。同じ人数である。このときに、茨曾根地区自主防災会から賞味期限間近のアルファ米が提供された。子どもたちから災害想定炊き出しを体験していただいた。

3番目に丸太切り大会である。地域の不要樹木を利用して丸太切り大会を開催し、多世代交流と住民同士の融和と連帯感を醸成した。参加者は37人だが、子どもの居場所と食堂とはメンバーが少し入れ替わっており、総体の人員は50人程度である。

次に、評価と課題である。午前中、子どもの居場所づくりではしの竹鉄砲や手作りかるた、的当てゲームなどで楽しく遊んだ。そのときに老人会が子どもの相手や指導をして、けがのないように推進した。お昼は老人会の皆さんから調理していただき、先ほど申し上げたアルファ米でカレーライスを食べたわけである。午後は丸太切り大会だが、これは競争原理は導入していない。みんなで楽しく丸太を切って、椅子や鍋敷き、植木鉢台などを作成し、全員でペンキ塗りをして交流したわけである。椅子は集会場の外、老人会が福祉バス乗降場に設置してある。鍋敷きや植木鉢台はそれぞれ自由に持ち帰った。

評価と課題である。アンケートでは、全員が楽しかったということで、回答を得ている。今後もイベントに参加したいとの回答があった。暖かい時期になったら屋外での日帰りキャンプや地域探検など、みんなの居場所事業を計画したいと考えている。一部アンケートでクレームがついているが、参加者からご了解をいただいている。

決算額は10万3,249円である。内、9万円が市委託料で、自治会負担は1万3,249円であった。事業ごとの経費内訳は、居場所が2万2,000円、食堂開設が1万5,000円、丸太切りが6万6,249円であった。今回の事業に対し、参加者一同、大変喜んでいて、採択いただいた市及び自治協の皆様にご多大の御礼を申し上げます。

○議長（小田会長） ただいまの下茨自治会によるこどもの居場所づくり&食堂開設・丸太切り大会について、ご意見やご質問があればお願いします。感想でもけっこうである。

ないようである。それでは、下茨こどもの居場所づくり&食堂開設・丸太切り大会の報告を終了する。

続いて、最後の事業である。月潟商工会青年部によるスカイランタン打ち上げ事業である。説明をお願いします。

○月潟商工会青年部 皆様、お疲れさまである。月潟商工会青年部事務局の神保である。よろしくをお願いします。

月潟商工会青年部では、スカイランタン打ち上げ事業を実施した。昨年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い小中学校は休校となり、月潟まつりや大道芸フェスティバル等の地域行事も中止となり、大人もいろいろ制約を受けた中での生活だったが、子どもたちも我慢の生活を強いられた。子どもたちにコロナの1年と区切りをつけ、明るく希望を持った新年のスタートを切れるきっかけにしたいと考え、年末、12月27日にイベントを企画した。

スカイランタンの打ち上げを行うに当たって参加者を募集したが、新型コロナウイルス感染症の状況もあったので、月潟地域内外から不特定多数の方が来場されると感染リスクが高まることを危惧し、参加者を月潟小学校児童・月潟中学校生徒に限定して、小中学校の先生方からご協力いただき、参加者を募集した。募集した結果、下の表にあるとおり、小学生が110名、中学生が18名、合わせて128名。あと、見学希望の方も併せて募集し、192名の保護者の方、保護者を中心に見学希望者、合わせて320名の参加申込をいただいた。

当初は、スカイランタンに使用する和紙に手書きで想いや願いを書いて打ち上げることを計画していたが、当日、現場で手書きで書くとなると、混雑密集するので、事前に短冊を配布し、想いや願いを書き込んでいただいた。それをスカイランタンにつけて一緒に打ち上げるということで行った。また、当日参加できない児童生徒の分も書いていただき、その分も一緒に打ち上げたということである。短冊の数としては195の短冊をお預かりし、打ち上げたということである。

スカイランタンの調達については、いろいろな部材があるのだが、それぞれの部材をインターネット等で、500円程度で調達できるのだが、LED電球を使用したスカイランタンはある団体が意匠権を持っているということで、インターネット等で調達してこれをやると意匠権の侵害に当たるということで、訴えられるということだったので、新潟スカイランタンフェスティバル実行委員会が意匠権を持っているので、そちらから調達するというので、1個当たり1,320円と、少しお金がかかった面はある。

約300人の方からお集まりいただくということで、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に重点を置いて取り組んだ。実施する前、12月17日に新潟県において警報が発令され、300人集まるのは非常に危険だということで、2部制に変更した。月潟小学校の体育館でソーシャルディスタンス2メートルを確保すると180名入るのが限界だということで、第1部を小学1年生から4年生、第2部を小学5年生から中学生までということで、2部制に変更し、保護者を合わせて180名以内で開催するというので計画を変更し、実施した。

また、新潟市において地域活動再開支援事業を実施しており、その事業の中で地域団体が活動を再開するにはどうしたらいいかということモデルケース、実践事例ということで、株式会社ディモルギアのご指導のもと、検温や手指消毒、来場者名簿の作成、ソーシャルディスタンスの確保、換気等を行いながら実施した。

スカイランタンの打ち上げの実施が12月27日日曜日。イベント名としては、月空ランタンフェス2020～舞い上がれ大空へ 希望を乗せて～というタイトルをつけてイベントを開催した。月潟小学校体育館、グラウンドにおいて開催した。参加者数については、表の記載のとおりである。第1部、第2部合わせて113名、実際に打ち上げた人の人数である。参加者113名。あと、見学者、保護者等になるが、158名。あと、スタッフ、月潟商工会青年部の部員数

は8名なのだが、OBや月潟地域のボランティアの方からお手伝いいただき、36名のスタッフ、合わせて307名の方が集い、実施した。

当日は、この季節としては奇跡的に好天に恵まれ、朝から青空が広がりほぼ無風の状態で、スカイランタンを打ち上げるには絶好のコンディションだった。スカイランタンを打ち上げるに当たって、風があるとなかなかうまく上がらないということで、風がなかったということが非常に奇跡的な状況であった。朝10時から打ち上げ準備、作成準備した。スカイランタンと併せて月潟小学校のグラウンドの国旗掲揚塔にイルミネーションの装飾を行った。クリスマスツリーに見立てたようなイルミネーションだが、幻想的な雰囲気づくりということで、併せて行った。

5時から打ち上げということで準備を進め、5時になり、司会をラジオパーソナリティーで月潟大道芸フェスティバル応援大使でもある斉藤瞳さんをお願いした。5秒前からカウントダウンし、一斉に打ち上げたということである。スカイランタンには先ほど申し上げた短冊をつけて、願い事や思いを子どもたちに書いていただいた。その中には、コロナが早く収まってほしいとかユーザーになりたいとか、そういった将来の夢などを書いていただいた。それをLEDで明るく灯されたランタンに添えて、一斉に打ち上げることができた。また、参加できなかった児童生徒の願いや思いも短冊につけて一緒に打上げることができた。

評価と課題だが、成果としては、多くの参加者、見学者を合わせて約300名の方からお集まりいただいた。その中の皆さんの思いや願いを空高く打ち上げ、コロナ禍に惑わされた1年から新年の希望へと気持ちを切り替えることができたのではないかと考えている。また、当日のようすは新潟日報にも記事が掲載され、月潟地域の地域行事をPRすることができたのではないかと考えている。児童生徒、保護者のほか、一般住民の方からご参加いただくことができなかったが、スカイランタンをやったのだねとかそういったお話があちこちで聞かれたので、地域の問題を提供することができたので、コミュニティの維持向上につながったのではないかと考えている。

今後の取組みだが、新型コロナウイルス感染症の収束状況にもよるが、月潟地域内外から参加者を募ることを検討している。今回は月潟の小中学生限定ということでやったが、新潟市内、また新潟市外の方からも参加できるようなイベントが開催できればと考えている。それが実現できれば交流人口の増加や地域間交流の促進に繋がり、月潟地域のPRに寄与することができるのではないかと考えている。また、将来的には月潟地域の目玉イベントの一つに成長できるように進めていきたいと考えている。

続いて、収支決算だが、南区まちづくり活動サポート事業の委託料として43万2,000円頂戴した。月潟商工会で1万3,804円負担し、収入合計44万5,804円である。支出内訳はこちらに記載のとおりである。総事業費44万5,804円の事業を行った。

このたび、こういったサポートをいただき、大変ありがとうございました。月潟商工会青年部にとっても全く初めてのイベントであり、いろいろ苦勞した面がある。特に新型コロナウイルス感染症対策である。たくさんの方から集まっていたきたいが、集まると新型コロナウイルス感染症感染のリスクが高まるということで、それをどうやってクリアするかということに非常に頭を悩ませたが、学校の先生のご協力もいただき、多くの方からご協力いただいて、無事実施することができた。ありがとうございました。

○議長(小田会長) 月潟商工会青年部によるスカイランタン打ち上げ事業の説明をいただいた。このことについて、ご意見、ご感想を頂戴する。

○鈴木委員 南区支え合いのしくみづくり推進員の鈴木である。お疲れさまである。私は月潟でのスカイランタン打ち上げイベントに子どもが参加するということで、ついて行ってようすを見せていただいた。今ご報告があったとおり、年末、天候が荒れるという予報ではあったのだが、屋内で揚げるにはどうするのかと思っていたが、天候に恵まれ、グラウンドでできた。参加者も多くて2部制にされ、感染対策をしっかりとされてのイベントだったと私も感心して見学させていただいた。

今回の対象は小中学生と保護者ということではあったが、地域の高齢者の方などからは見に行きたかったという声も聞こえているので、これからの月潟の目玉イベントとしたいというお話もあったが、まず、地域の中での交流をお考えいただき、次回開催を期待したいと思っている。

○議長(小田会長) エールをいただいた。

ほかにかがが。

ないようである。それでは、これをもって月潟商工会青年部によるスカイランタン打ち上げ事業の報告を終了する。

今年度採択された四つの事業について、説明と報告を4団体から頂戴した。ご存じのとおり、当初、大変多くの団体からこの事業に手を上げていただいたが、迫り来る新型コロナウイルス感染症のために次から次へと事業を断念せざるをえなくなり、最後、7月の段階で皆様方から了解をいただき、2次募集の形で、ようやくこの4事業を決定させていただいた経緯がある。8区自治協議会の中で南区のまちづくりサポート事業は最大規模での執行であった。本日の4団体も新型コロナウイルス感染症をどう乗り切るかで大変なご苦勞をされたようである。ぜひとも、この体験を次に生かしていただきたいと思っている。本日の発表をしていただいた方にもう一度拍手をお願いする。

発表の皆様、ご苦勞さまである。ありがとうございました。

4 議事

(1) 次期南区自治協議会委員の推薦について

○議長(小田会長) 会議を進める。続いて、次第4、(1)次期南区自治協議会委員の推薦について、委員推薦会議の座長である鈴木照子委員から報告をいただく。

○鈴木委員 お疲れさまである。鈴木である。南区自治協議会委員推薦会議の座長を務めさせていただいている。令和3年3月4日に第3回南区自治協議会委員推薦会議を開催させていただいたので、そのご報告をさせていただきます。

資料2をご覧ください。第8期南区自治協議会委員推薦者一覧(案)をご覧ください。第1号委員、地域コミュニティ協議会等選出者については、ご覧のとおり12人の内すべての推薦が各コミュニティ協議会からあった。

次に、第2号委員、公共的団体等選出者については、12団体の内11団体からそれぞれご推薦いただいた。南区PTA連絡協議会からは、委員推薦について検討中のため、推薦が出されていない。これについては、4月の全体会が開催されるまでに推薦があった場合は、委員としての要件を満たしていれば委員推薦会議及び自治協議会の推薦を省略して委員の手続きを進めてよいか全体会で諮るという結論になっている。後ほど、委員推薦と併せてご承認いただきたい。

次に、第3号委員、前2号に掲げる者のほか、区長が必要と認めた者の内、有識者については白根図書館協議会委員の阿部隆一さんから第7期に引き続いて委員就任のご承諾をいただいた。また、第7期まで食生活改善推進委員協議会南支部より選出の小嶋ノリさんからは、第8期は地域教育コーディネーターとして委員就任のご承諾をいただき、新たに行政経験者の高橋直廣さんから委員就任のご承諾をいただいた。

次に、第3号委員の内、公募委員については、定員2名のところ3名の応募があり、委員推薦会議で選考した結果、西山久子さん、半間奈菜さんを推薦することになった。

以上、委員推薦会議で審議の結果、資料2のとおり自治協議会へ推薦する決定をしたので、ご承認いただくようお願いする。

○議長(小田会長) 今、鈴木推薦委員会座長から報告をいただいたとおりである。一部名簿にまだ空欄があるが、これを除いて、ご覧いただいたご意見を頂戴したい。

ご意見、質問がないようなので、報告のとおりお認めいただいたものと承知する。なお、鈴木座長からも報告があったように、推薦が出ていない団体から4月以降の全体会が開催されるまでに推薦があった場合、委員としての必要要件を満たしていれば委員推薦会議及び自治協議会の推薦を省略し、事務局で委嘱の手続きを進めることを了解していただけるだろうか。

ありがとうございます。それでは、次回の4月の全体会が開催されるまでの間に選出団体から要件を満たした申し込みがあった場合、推薦会議及び全体会の議論を省略し、事務局で委嘱の手続きを進めさせていただきます。

5 部会報告

(1) 部会報告

(2) 南区自治協議会提案事業事業評価について

○議長(小田会長) 会議を次に進める。部会の報告に移らせていただく。次第5(1)部会報告についてと(2)南区自治協議会提案事業事業評価については関連があるので、まとめて各部会長から報告していただく。なお、全部会の報告が終わってから委員各位のご意見、質問を頂戴する。

まず、鞆子委員から第1部会の報告をお願いします。

○鞆子委員 第1部会を担当している鞆子である。

第1部会においては、3月10日に令和2年度の提案事業について、部会員の意見をもとに事業の評価と課題についての内容を取りまとめた。内容については、添付の資料4-1を見ていただきたい。

特に、事業の評価だが、新型コロナウイルス感染症の関係も影響しているのではないかと思うが、若干乗車数が減っている。この中で、いろいろなイベントをやって、区バスに親しみを持ってもらうことも大事だということもあったのだが、今後は利用者が直接的に支援されるような事業を執りおこなうということで、来年度は動いていっていただきたいということでまとめさせていただいた。

また、防犯・防災関係についても、みんなが住むところの安心・安全の機運を盛り上げるために、関係団体等を通じて機運を盛り上げるような形を来年度も進めていっていただきたいということでまとめさせていただいた。

第1部会の部会長として、個人的な感想になるが、やはり、区バスを今後どういう位置づけにするかが南区にとって大きな課題だと思う。毎回言っているように、買い物難民をどのような形で救っていくかということが、今後、長期間にわたってこの自治協議会の中で検討するということが大きな形だと思うのだが、微力でなかなかそういった大きな提案事業ができなかったことについて、個人的に反省している。

また、防犯防災関係についても、新型コロナウイルス感染症の関係で大きな、例えば、南区全体の防災訓練ということは今後もできないという形の中で、コミュニティ協議会単位よりもっと小さい単位、自治会単位というように自治協議会としてどのようなスタンスでやっていくのがベターなのだという方向性も示すべきだったのではないかと考えている。2年間やらせていただき、いい経験になった。お世話になった。ありがとうございました。

○議長(小田会長) ただいま、第1部会から報告をいただいた。部会報告と併せて事業評価についても報告を頂戴している。

続いて、第2部会長の笹川委員から報告いただく。

○笹川委員 第2部会の笹川である。

第2部会は3月11日に令和2年度提案事業について事業評価等を行った。資料4-2をご覧いただきたい。第2部会では、南区家族ふれ愛事業、南区出会いの場づくり事業を行った。大きくこの二つの柱で提案事業を行った。年度初めはコロナ禍で、毎年400人以上の方からいらしていただいている映画上映会ができるかできないかということで、コロナ禍で大きな事業をやるという難しさを感じながら計画を立ててきた。例年とは違い、会場の半分の人数しか収容できないということで、申込方法を電話とし住所氏名をお伺いしてということだったので、申し込み人数が例年の4分の1以下しかなかったような状況だったが、皆さんコロナ禍の検温等、きちんと守っていただき、105名の方から映画上映会に参加していただいた。やはりコロナ禍で開催するのはなかなか難しいという感想であった。映画の内容についてはとてもよかったと、もっと若い世代にも見ていただけるとよかったという感想があった。

また、例年行っている絵画・川柳展は、今まで児童の名前が公表していただけなかった学校からも、全員表記してもいいというご理解をいただいたことから、浸透しているのだなということを実感できた絵画・川柳展だったと思っている。

それから、出会いの場づくり事業だが、こちらも今までとは会場を変えての開催であった。今までは食事作りを基本に行ってきたが、コロナ禍でそれもできないということで、大変広い会場で、少しお話をするにはどうかというような感じだった。昨年よりもカップル数が増えたが参加者の方から自治協議会が主催しているならという声も大変多く聞かれ、男性は応募者が定員の3

倍近くだったことから、地域に着してきている事業だと感じている。また、次年度もこの大きな柱を崩さずに、内容はどうお決めになるか分からないが、私たちのやってきた、定着しているイベントをさらによいものにしていただきたいと思います。

私も2期連続で第2部会に所属してきたが、やはり地域の課題、先ほどの市長のお話にもあったが、なかなか子どもの数が増えない、人口が流出しているということで、やはり子どもたちの住みやすい、また、ぜひ若い人たちに南区に住みたいという気持ちを持っていただけるように、区のお手伝いできればと思って出会いの場づくり事業などにかかわってきた。この中で実際にカップルが誕生したり、この事業に参加したことで真剣に将来を考えて、イベント会社のイベントに参加してご結婚なされたという報告も受けているので、大変喜ばしいことだと思っている。2年間、どうもありがとうございました。

○議長（小田会長） 続いて、第3部会長の富井委員から報告をお願いします。

○富井委員 第3部会の富井である。

第3部会では、3月9日に部会を開催した。中身は、今、皆さんが言われたような事業評価と、業評の一つとして、パネルのレイアウトを検討した。

評価については、資料4-3をご覧ください説明する。一つは、南区の発信事業としての料理教室である。料理教室は、コロナ禍ではあるが、新聞に募集が載ったこともあり、区外からの方もたくさん参加していただき、人数を制限して開催でき、とてもいい機会だと思った。

その次の記念パネルは、館内に、コンクリートと木造の複合建築なのだが、記念パネルのレイアウトを検討し、パネルを2枚設置した。皆さん、何かの機会があれば見ていただきたいと思います。

3番目がスポーツ事業である。ファミリーダンス教室の開催だが、今年は意気込んでいたのだが、新型コロナウイルス感染症の関係で人数制限と、天候も悪く、参加実績にあるような人数の結果となった。新型コロナウイルス感染症の関係もあるが、やはり来年度も新型コロナウイルス感染症の関係もあるので、実施するには屋外でやるとかアリーナでやるとか、新型コロナウイルス感染症を考えて、また、意見としては、勝負のつくものが面白いのではないかとという意見もあり、そのような方向でこれから再検討したほうがいいのではないかと。ダンスばかりではなく、ダンスとまた別のものと併合するいろいろな意見が出たので、それを参考に来年度はやっていただきたいと思います。

○議長（小田会長） 続いて、私から、まちづくりサポート事業についてお話しさせていただく。先ほど、事業報告を受けたところにも申し上げたが、この事業は、南区が8区の中で最大の事業高、250万円を投じる事業であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小せざるをえなくなった事業が続出し、大幅な予算執行残を残しての閉幕となった。さらに、追加募集に応じてくださった団体も、短い期間で努力し、応分の成果を上げ、地域の方から喜ばれた報告を先ほどいただいた。それが下茨こどもの居場所づくり&食堂開設・丸太切り大会、あるいは月潟商工会青年部のスカイランタン打ち上げ事業である。短い期間ではあったが、本当に頑張ってやってくださったと思っている。さらに、すでに過日の自治協議会でご承認いただいたように、この事業が今までは1回の事業採択をもって終了し、あとは自己資金で継続していただきたいと思いますという取り決めでスタートされたが、2回目までさらに応募ができるというように先般、制度改正をさせていただいた。今後、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響があらうかと思うが、より健やかにこの事業が発展し、市民の皆さん方に定着するように望んでいるところである。

今、各部会の報告とまちづくりサポート事業について、概略の報告をいただいた。このことについて、ご意見があればお願いします。

ないようである。それでは、次に進ませていただく。

6 報告

(1) 自治協議会会長会議について

○議長（小田会長） 続いて、次第6(1)自治協議会会長会議について、私から報告する。

3月に自治協議会会長会議、8区の全会長がおそろいで、市長も交えて最終のまとめをさせていただいた。その中心が資料5-1、南区自治協議会(第7期)を振り返って、それから資料5

ー 2、新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に関する情報共有についてである。私からは、資料5-1に沿って報告させていただいたところである。資料5-2については、すでに先回も皆さん方に報告し、了解を得たが、7月の自治協議会会長会議で私から方針を示させていただき、成案化し、各自治協議会の共有認識としてこれから進んでいくということで、決定している。ウィズコロナ、ポストコロナという二つを見据えての自治協議会のありようを示させていただいた。

まず、第7期を振り返ってだが、資料5-1も大変長文である。それから、先般発行された自治協議会だより第1面の冒頭に私の名前で第7期を振り返ってと表現し、所感を述べさせていただいた。そのとおりで、かいつまんで、改めて申し上げる。

一つ目が、コロナ禍の大変困難なところだったが、南区自治協議会は8区の中で極めて活発な議論の交わされる、ディスカッションが定着した自治協議会に成長することができた。

二つ目が、区長をはじめ区役所と自治協議会の2役、会長、お二人の副会長も交えて、定期的に一月に1回打ち合わせをすることが定着し、区と自治協議会がお互いに区政の共通認識を持つに至り、これが自治法の枠から離れた自治協議会ではあるが、共同の要としての役割を制度的にもきちんと立証することができた、8区の自治協議会の中では唯一のところだと思っている。

三つ目が、これもまだ追従する自治協議会はないが、ただいま部会長からご報告いただいたように、組織目標の評価をきちんとできるようになった自治協議会であると。それから、新たに数字に基づいた評価から市民の体験的な、体感的な評価へ視点を変えようという動きが、特に第1部会を中心にして出てきた。評価の視点を変えようという極めて重要なところに委員会そのものが、あるいは自治協議会そのものがお気づきになった点は大変評価できることだと思っている。

四つ目が、行政のみの姿勢や区政の運営には明らかに限界がはっきりしてきたと。地域住民が協働しなければ、今後の福祉や教育や地域防災についての新潟市のまちづくりはありえないということが共通認識として一致した。これも極めて重要なことである。

最後に、残念なことでもあるが、今期はまちづくりマスタープランの改定のときであったが、働く、住む、そして遊ぶというまちづくりの基本原則に沿った提言や議論が少し稚拙になったことは否めない事実である。もっと極端にいうと、行政や区のベースに私ども自治協議会が少し偏りすぎ、私たち自らが自らの課題を解くための手立てを発信するという力に少し欠けていたように思う。先般の会議のときも申し上げたように、そういう意味では、私ども南区自治協議会も少し片肺飛行だったのではないかという感じが否めない。

長文の報告書だが、ぜひともお読みいただき、時期、第8期に生かしていただければと思っている。以上が8区自治協議会会長会議に報告した、特に第7期を振り返って、ウィズコロナ、ポストコロナ下における自治協議会のあり方について報告させていただいた。

このことについて、ご意見があれば頂戴する。

○鞠子委員 今、小田会長のおっしゃったとおりだと私も思うが、先ほども市長のお話の中にあつたように、いろいろ、行政が方向性を示している中で、ではコミュニティ協議会がとか自治会がとか自治協議会がという中で、コロナ禍で一番考えなければいけないことは、小さい単位でどのように小さい回しをしていくかということが一番課題だと私は考えている。ただし、小さいと、情報の連絡がなかなか、Aさんが例えば5人いても、ならば伝わるのだが、10人が二人ずつのグループになってしまうと、なかなか最後まで正確な情報が通じないということが一番懸念される部分だと思う。それをどうやって克服するかということも、ひとつ、この7期の振り返りの中で、今後、自治協議会でも考えていかなければいけない大きな課題ではないかと。ここで思っていることが、コミュニティ協議会に行って、コミュニティ協議会から自治会に入っていたときに情報が変わってきてしまうということが一番恐ろしいということ懸念しているので、第8期の中では、自治協議会の中で、コミュニティ協議会代表で8名、先ほど異論なく生まれたわけだが、その辺をどのように展開するか、一つ一つの、コミュニティ協議会だけではなく、全体で考える場があってもしかりではないかと個人的には考えている。

それからもう一つだが、協働の中が、今までは大きい固まりと大きい固まりが動いていたが、先ほどから言っているように、小さい固まりと小さい固まり担った場合に、いかに情報を展開するか、可視化するかということ大きな課題だと思っている。それはこういうことをうちの大通

りではやっている、味方コミュニティ協議会ではこういうことをやっているのだという情報が横につながるといことも一つなのだが、行政がこういう方向性でこういう形をやっているという情報をいかに広めるかということが課題でないと、協働の手がいっぱいになったのだから、そこをどうやって手をつなぐかということ細かい分野で可視化しないとつながっていかないということが不安感の中にある。これをコロナ禍がずっと続くという中で考えていかなければいけない部分も、自治協議会の第8期の大きな問題点ではないかと鞠子個人は思っている。その辺を第8期の中で、私もうれしいやら来期も委員として出させていただくので、その辺は皆さんと意見交換をして、よりよき自治協議会にしていきたいと思っている。

小田会長、お疲れさまでした。ありがとうございました。

○議長（小田会長） 大変貴重なご意見を頂戴した。

ほかに発言があればお願いします。

ないようである。

（2）その他

○議長（小田会長） 続いて、その他に移らせていただく。その他について、まず、事務局からあれば発言をお願いします。

○鈴木地域総務課長補佐 はじめに、地域総務課からお願いします。南区公共交通ガイドについてご案内させていただく。このたび、公共交通ガイドの令和3年度版を作成した。区民の皆さんには3月21日に新聞折り込みなどで全戸配布したところである。本日、自治協議会委員の皆さんにお知らせするために、参考までに改めて配付している。ぜひ、ご覧いただきたい。

○議長（小田会長） 続いて、産業振興課から報告いただく。

○石崎産業振興課長 私からは、月潟農村環境改善センター郷土物産資料室のリニューアルについてお知らせする。

配付資料をご覧いただきたい。令和2年度区づくり予算の中で、角兵衛獅子の魅力向上の取組みの一つとして予算を計上させていただき、この予算を活用して、資料室への展示替えを実施した。今月31日10時にリニューアルオープンする。この展示替えに際しては、角兵衛獅子保存会、月潟ガイドの会の方々、歴史博物館の学芸員の方など、ご協力をいただいている。

主な展示替えの内容としては、展示物を時代や物語に沿った形で配置換えを行っている。また、角兵衛獅子の紹介映像については、時間のない方でも角兵衛獅子の魅力が伝わるよう、5分程度にまとめた内容に再編集している。また、展示物についてだが、キャプションを設置することで資料の内容等が分かるようにしている。

最後に、資料室の中央部にワークショップなどが行える交流スペースを設置した。自治協議会委員の皆様方におかれても、お近くに行かれた際は、ぜひ、お立ち寄りいただければと思っている。また、今後、区だより等でも紹介していきたいと考えている。

○議長（小田会長） 続いて、5月の着任のときにごあいさついただいた地域おこし協力隊の前田隊員から、今日、活動の報告を頂戴することになっている。前田地域協力隊員、お願いします。

○みなみ一て地域応援隊 前田紗織氏 お手元の資料で、新潟市南区地域おこし協力隊令和2年度活動報告書、一枚物のA4の紙をご覧いただきたい。

この1年間でさまざまな活動をさせていただき、大きく分けて3点、この場を借りて報告させていただく。1点目、高校との連携ということで、白根高校生と一緒に外国人向けの体験ツアーを作った。この活動は、白根高校生が外国人向けの農業体験ツアーを企画し、10月8日に農業体験ツアーとして外国人を対象に、高校生がアテンドを行うという内容である。実施に当たり、私は旅行会社の経験を生かして、農業体験ツアーのノウハウの伝授や当日のアシストの仕方を高校生に教えたり、生産者の方々に協力いただきツアーの企画を行った。

2点目は、コロナ禍だからこそということで、南区の魅力を伝えるオンラインツアーを開催している。旅行会社と南区の生産者と南区農泊推進協議会が連携し、南区の農産品を食べながら生産者と交流できるオンラインイベントを実施した。秋にぶどう、冬にレクチュエ、3月末、今度の日曜日になるが、生ハムを使ったオンラインツアーを実施予定である。こちらに関しては、生産者との打ち合わせの段階からリハーサル、また本番の進行役ということで、全面的にかかわ

らせていただいております、今も最終の調整を進めているところである。

3点目は、南区の魅力を発信ということで、いろいろな媒体を使ってPRを行った。ユーチューブのしろねこチャンネルというところで白根商店街のまち歩きや凧合戦に関しての案内、そのほか、ラジオを通じて活動の様子を報告したり、区だよりみなみ風にて月1回、活動の報告を行っている。

来年度に関しては、こちらに記載のとおり、引き続き南区で頑張っている方々がたくさんいらっしゃるの、そういった方々の応援やPRを行うと同時に、私のように南区が好きで、南区ってすごいと思ってもらえるファン、南区好きを増やしていきたいと思っている。来年度1年、また引き続きこういったところを目標にして頑張っていきたいと思っている。引き続き、よろしく願います。

○議長（小田会長） 委員の皆様方からご連絡なりおつなぎ事項があれば、願います。ないようである。それでは、次に進める。

7 次期第1回全体会

○議長（小田会長） 次第7、時期第1回全体会について、事務局から説明いただく。

○鈴木地域総務課長補佐 次期自治協議会の全体会については、本来であれば次期委員の皆様からご意見を頂戴して、全員の出席ができるように日程調整をするべきではあるが、なかなか日程的に難しいところがあり、大変申し訳ないが、第1回全体会については、これまでどおり最終水曜日として4月28日水曜日、午後2時から開催させていただきたいということで、ご案内させていただく。5月以降の開催の日程については、次回の自治協議会で決めていただきたいと思います。

○議長（小田会長） それでは、変則的な面もあるが、次期第1回全体会の開催日については、4月28日水曜日午後2時から、南区役所講堂で開催するという事で決定させていただく。ご了解いただきたい。

ほかに、事務局からあれば発言を願います。

○副区長 時間をいただきありがとうございます。今年度をもって退任、異動する区役所職員よりあいさつさせていただきます。

○議長（小田会長） それでは、本年度をもって退任、異動する職員からごあいさつを頂戴する。（退任、異動あいさつ）

最後に、五十嵐区長から発言の申し出があるので、ごあいさつを願います。

○区長 委員の皆様へ一言お礼申し上げます。本日で第7期の自治協議会は最後になる。委員の皆様におかれては、2年間、本当にありがとうございました。今季は昨年3月から新型コロナウイルス感染症でなかなか会議が開催できず、休会か書面開催を余儀なくされた。そのような中でも、委員の皆様からは貴重なご意見をいただき、南区に対する熱い思いを感じることができた。また、それぞれの部会においても、区の課題解決につながるような提案事業に取り組んでいただいたことにお礼申し上げます。

そして、小田会長、小林、田中両副会長、2役の皆様からは全体会、部会のほか、事前の打ち合わせがあり、月に何回も区役所に足をお運びいただき、大変だったと思う。大変感謝申し上げます。それから、小田会長においては今期2年間は、市内8区の自治協議会会長会議の座長という重責も担っていただき、文字どおり新潟市を代表する顔として活躍いただいた。これまでのご功績に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

新年度に入ると、第8期がスタートする。来季もかかわっていただく方は、引き続きよろしく願います。また、今期限りで退任される方については、さまざまな場面でまたお力添えを賜りたいと思うので、よろしく願います。我々職員もコロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症に負けずに皆様方のご協力のもと、南区の課題解決、それから南区を盛り上げるために頑張っているの、引き続きお力添えをよろしく願います。2年間、大変お世話になった。ありがとうございました。

○議長（小田会長） 引き続き第8期にもご活躍いただく委員の名簿も確定した。皆様方のさらなるご活躍を祈念しつつ、第12回南区自治協議会を閉じさせていただく。長い間、ご苦労さ

までである。

8 閉会

(午後4時40分)